

令和5年度学校自己評価システムシート (県立川口工業高等学校【単位制による定時制の課程】)

目指す学校像	地域産業の発展に寄与できる、心豊かな人間の育成を図る。
--------	-----------------------------

重点目標	1 生徒の実態に応じた授業の工夫・改善を進め、工業高校生としての基礎力を着実に向上させる。 2 充実した学校生活と進路実現のために、生徒指導及び進路指導の充実を図る。 3 地域との連携を深めると共に、工業高校生としての取組を積極的に発信することで開かれた学校づくりを目指す。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	8名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価						
年度目標				年度評価(1月17日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度

学校関係者評価	
実施日	令和6年1月31日
学校関係者からの意見・要望・評価等	

1	【基礎力向上の取組みの継続】 生徒個々に応じた授業改善や日本語支援員・学習サポーターを活用したサポート体制などの取組みにより、生徒の授業への参加意欲も向上し、欠点保有者・成績不振者も減少傾向にある。今後もこれまでの取組みを継続し、ICT活用や授業改善を進めることで、主体的・積極的に学習する態度を育成することが課題である。	生徒の授業への参加意欲を高めることができたか。	日本語支援員や学習サポーターを活用し、日本語の苦手な生徒や苦手科目のある生徒に対する指導を充実させる。	・成績不振による進路変更をする生徒0名(昨年度0名) ・成績不振者(欠点保有者)の減少(昨年度18%)	・成績不振による進路変更をする生徒0名 ・成績不振者は1学期末6名(9%)、2学期末15名(24%)	B	日本語支援員や学習サポーターをさらに効果的かつ組織的に活用し、特に日本語の苦手な生徒への指導体制を充実させる。
		生徒個々に応じたわかる授業を展開することができたか。	生徒のタブレット活用など新たなICT活用に取り組み、観点別評価による授業改善を進める。	・成績優良者(評価平均4.3以上)の増加(昨年度25%) ・教員の「授業にICTを活用して指導する能力」に対する自己評価の向上	・成績優良者は、1学期末19名(29%)、2学期末23名(37%) ・教員の「授業にICTを活用して指導している割合は増加している。	A	1人1台端末時代のICT活用も含め、引き続き授業改善に取り組み、個々に応じたわかる授業を展開させる。
2	【全教職員で取り組む生徒指導・キャリア教育の継続】 教職員が一丸となった凡事徹底を継続する生徒指導により、高校生としての基本的な生活習慣が浸透しつつある。 入学時において、具体的な進路目標を持たない生徒が少なくない。キャリア教育を充実させることで早い時期に具体的な進路目標を持たせる必要がある。	生徒が高校生としての基本的な生活習慣が身につけ、充実した高校生活を送ることができたか。	家庭・地域との連携・情報共有により、凡事徹底を継続する生徒指導を継続し、欠席や遅刻することなく、充実した学校生活を送らせる。	毎月実施する遅刻者指導を受ける生徒の減少(昨年度1日平均2.37人)	遅刻者指導を受ける生徒は平均2.53人で微増。特定の生徒の遅刻・欠席が目立っている。	B	凡事徹底を継続することで、生徒の規範意識を高め、充実した学校生活を送るための基本的な生活習慣を確立する。挨拶の習慣化を進める。
		生徒が具体的な進路目標を持ち、その実現に向けて活動できたか。	年間を通して、キャリアパスポートの活用や、外部の教育力と連携したキャリア教育の充実を図り、生徒の進路意識を向上させる。	・進路希望調査において、具体的な進路希望を持つ生徒の増加 ・4年次生の卒業時における全員の進路先決定	・3年次生の進路希望状況で未定0名。 ・4年次の就職希望者12名中10名内定(83%)、進学希望者5名合格(100%)。	A	進路・渉外部を中心に全学年で年間を通してキャリア教育の充実を継続させる。
3	【積極的に取り組む保護者・地域との連携】 コロナ禍で制限のあった教育活動は、制限が少ない状況で実施可能となることが想定される。 保護者・地域に本校定時制の教育活動を理解いただくため、日常の情報発信と、地域に貢献・還元するイベントの実施を積極的に進めていく必要がある。	保護者や地域へ本校の教育活動を積極的に情報発信し、理解を高めることができたか。	学校行事や学年行事等の日常の教育活動を中心に、ホームページ等で定期的に情報発信する。	・本校ホームページの閲覧数の増加(昨年度6%増) ・本校ホームページへの投稿・記事更新数の増加	・本校ホームページの閲覧数は昨年度比6%増。 ・本校ホームページへの投稿・記事更新数は昨年度比10%増。	A	ホームページへの投稿・記事更新の徹底と、SNSを使った情報発信について研究する。
		地域に貢献・還元するイベントを積極的に行うことができたか。	全日制や外部の学校説明会、「かわこうざ」「子ども大学かわぐち」など、地域の方が参加できるイベントを積極的に行う。	・地域イベントへの参加者の増加 ・学校説明会等への参加者の増加	・地域イベントへの参加者数は昨年並みであった。 ・全日制の学校説明会・文化祭での定時制の説明・見学希望が増加している。	A	働き方改革にも配慮しながら、全日制との協働をさらに進め、地域との連携を深める。

・多様な子供たち個々に応じた指導をされていると思う。 ・授業は分かりやすい様子である。 ・基礎力向上は図られていると思う。 ・外部の人材やICTを活用して、引き続き個々に応じたわかる授業を継続してほしい。
・先生方が登校時に声掛け指導を率先しているのは、学校の良い雰囲気づくりに繋がっていると感じる。 ・夜間開講の定時制高校なので、生徒の下校時刻の指導を強化して欲しい。 ・少人数のメリットを生かして充実した進路指導・キャリア教育が行えている印象である。 ・保護者にも進路について具体的に分かりやすく説明してもらえると助かる。
・ホームページも普段の学校の様子が掲載されていてわかりやすくて良いと思う。 ・保護者との連携がとてもよく取れていると感じる。 ・学校行事等が他の定時制高校に比べて充実しているように感じる。全日制との共同で行われ始めていることは学校として良い方向性だと感じる。